

○ 第1部 市政報告

【市からの状況説明】

1. 新型コロナウイルス対策
2. 全国屈指の森林観光都市に向けた取組み
3. プレミアム電子商品券
4. 駅と駅をつなぐにぎわいづくり
5. 通学路整備・市道改良・公園遊具改修など
 - ・市道17号線通学路安全対策工事
 - ・室川第9雨水枝線整備工事
 - ・市道14号線道路改良
 - ・カルチャーパーク陸上競技場改修工事
6. ほりかわ幼稚園のこども園への移行

市長

※詳細は別途資料参照

○ 第2部 地域まちづくりについて	
1 プラスチックごみの分別収集と再商品化	
【市からの状況説明】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチックは現代社会に不可欠な素材であり、また海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題等への対応が必要である。 ・ 本年4月に、容器、包装以外の製品プラスチックの資源の循環を図るため、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行された。 ・ 市の役割として、製品プラスチックの分別の基準を策定し、基準に基づいた適正な分別が求められている。 ・ 現在の本市における包装材料やプラスチックリサイクルマーク、コンビニのトレイ等の分別の流れは、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会(容器包装リサイクル法の指定法人)が仲介するルートでリサイクル(資源化)されている。各自治体の中間処理施設において、各家庭より回収されたプラスチックをまとめて圧縮することはできるが、細かくチップ化することは難しい状況があり、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会が、関東全域で再商品化するルートを作っていることから、本市もこの協会ルートを使用し資源化に取り組んでいる。 ・ 紙類は、回収後、製紙工場へ搬出し製品化される。 ・ 製品プラスチックについても、本市の中でプラスチック化することが難しいため、包装容器プラスチックと同様に、仲介ルートを活用した資源化を考える。 ・ 法律は既に施行されているが、まだ実施できる状況にはなく、今後、再商品化に係わる具体的な内容については、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会から示される。また、本市のごみ処理は伊勢原市と共同で実施しており、国や日本容器包装リサイクル協会、他の市町村の動向を注視しながら、分別基準、導入のスケジュール、収集体制を分析し、適切な時期に、市民の皆様からの御意見を伺う場を作る等、混乱なく、製品プラスチックの分別収集の実施を目指す。 	環境産業部長
【質問・要望・意見等】	
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度も同様の質問をし、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会の返事待ちであるとの今回の回答内容は、前回と同様である。 ・ 本年4月に法律が施行され努力義務であるとは言え、積極的に取り組むべきである。詳細が協会から示されていないとは言うが、他の自治体の状況はどうか。 	堀川中自治会

	<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度中に、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会から一定の方向性が示される予定であり、少しずつ前進すると考える。 ・ 本市において、回収されたプラスチックをまとめて圧縮することはできるが、細かくチップ化する仕組みを構築することが難しく、先例市の中には、市内に独自業者が存在し、仲介業者に資源化を委託せずに、古紙と同様に資源化できるしくみを構築している自治体もある。県内は本市と同様の状況である。 	<p>環境産業部長</p>
	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsの高まりもあり、一時期は簡易ペットボトルがあり余っていたが、現在は高騰している。企業側もペットボトルを再利用することが起業のイメージアップにつながると考え取り組む状況がある。今、再資源化への取組はチャンスである。 ・ 公益財団法人日本容器包装リサイクル協会のルートで処理できるという流れの中で、市で検討中なのは分かるが、積極的に取り組んでいただきたい。目標とする市民一人当たりのごみの量も、再資源化の取組により解決できるのではないか。 	<p>堀川中自治会</p>
	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別市政懇談会の開催に当たり、自治会内で意見を伺ったところ、プラスチックの回収を毎週実施にしてほしいとの意見があった。製品プラスチックの回収が実施された場合は、回収回数を増やすことを想定しているようだが、その前に現状で回収回数を毎週へ変更することについてどのような考えか。 	<p>千村台自治会</p>
	<p>(市回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同様の意見は既に伺っているが、現在の人員配置や予算の状況により、製品プラスチックの資源化の導入時に、回収を毎週とするのか、ペットボトルの回収をどうするのかを改めて考える。 ・ 市内14箇所にストックハウスがあり、西地区内にも、元西公民館跡地にストックハウスがあるため、御活用をお願いします。 ・ 現状のプラスチックの回収経費は、年間9千万円であり、一人一人の御努力をいただきながら、隔週の回収を御理解いただきたい。 	<p>環境産業部長</p>

2 県道708号秦野大井線交通安全対策

【市からの状況説明】

○信号機の設置

- ・ 信号機の設置等交通規制は、交通管理者である警察が所管する。
- ・ 今回の要望は秦野警察署に伝え、既に、これまでの数年間に渋沢中学校やPTAからも要望もあり、秦野警察署からは、3年前に神奈川県警察本部に対し、信号機の新規設置の上申を行っているとの回答である。
- ・ 信号機の新規設置の基準の中に、既存の隣接する信号機との間隔が150メートル離れていること、1時間あたりの交通量が平均300台以上あることが必要となること、歩行者の滞留場所(渡る前に待つ場所)が確保できることが基準としてある。このような基準を満たしたうえで、可能性を考慮し、県内の他の箇所とのバランスを見ながら、総合的に判断して考えている。
- ・ 市では、既に、この場所へのカーブミラーに注意喚起の看板が設置済であるが、警察署により、信号機が設置されるまでは、より効果的な注意喚起のため、この交差点のもう少し手前からさらに複数枚の看板設置や交通指導員や青パトによる見守りに対応することを考える。

くらし安心
部長

○ハンプの設置 ※「ハンプ」とは、交通安全対策のために、道路の路面に設けられた凸状の部分のことです。

- ・ 県道を管理する県(平塚土木事務所)でも、安全対策の必要性を認識し、夜間でも視認性の高いプリンカーライトや道路の赤塗り、左急カーブへの速度落とせの路面標示、横断歩道を知らせるダイヤモンドマーク、グリーンベルトを設置し対策している。
- ・ ハンプを設置すると、振動や騒音の原因となるため、まずは近隣住民の理解が必要である。近隣にお住いの皆様の同意が得られれば、県では地域の要望を受けて、改めて、設置を検討すると伺っているため、具体的な要望段階になった場合には市(国県事業推進課)へ御連絡ください。

建設部長



交通事故が多発している五叉路



【質問・要望・意見等】

(要望)

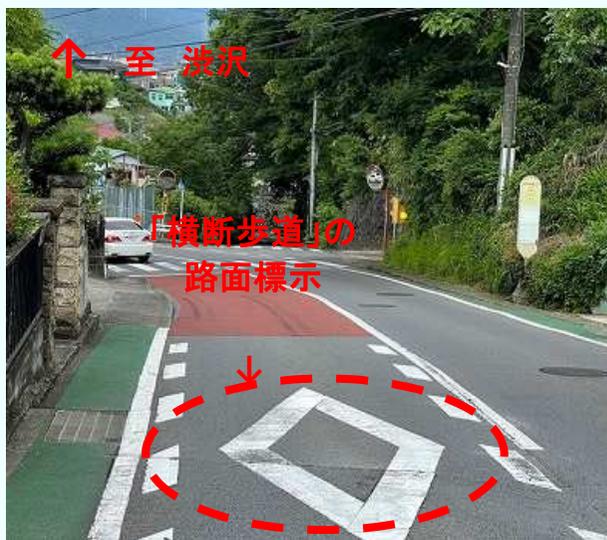
- ・ 1時間あたり車の交通量が平均300台というのは、東京や横浜を基準としており、市内では、該当する箇所はないのではないか。都会と田舎では状況が異なり、もっと、地域の実情に応じた基準へ変えていただきたい。
- ・ 先日もこの五叉路で、峠への上りの右側のブロックに衝突する大きな事故があり、幸い負傷者がいなかった。事故が頻繁に起きているので、基準は基準だが、現状を把握し改善いただきたい。
- ・ ハンプの説明は、自治会でどのくらいの範囲で、どのくらいの人が賛成しているか、自治会で調査をしてくださいとの理解でいいか。

渋沢連合自治会

(回答)

- ・ 県(県警察本部)としては、基準は基準としてるが総合的に検討すると伺っており、市としては、中学校入口であるとの要因や周辺での過去に発生した交通事故の状況もあるため、引き続き、県(県警察本部)へ要望する。

くらし安心部長



県道708号線
渋沢中学校入口の
横断歩道周辺の路面

(回答)

- ・ 自治会で、全ての地域住民の理解を得るということではなく、当該区間には住宅が張り付いているので、少なくとも、ハンプを設置する箇所の近隣の住民の同意を自治会で得ていただきたい。その後、市が県と調整する。

建設部長

3 敬老会の実施方法（記念品配布方式への変更）

【市からの状況説明】

- ・ 本市では、多年にわたり、地域社会の進展に尽くされてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝福することを目的に、敬老会を開催してきた。
- ・ 平成16年度まで、市が75歳に到達した人を対象に開催してきた。
- ・ 参加者の利便性や地域開催による参加率の向上のため、自治会連合会や民生委員児童委員協議会等と相談し、平成17年度から地域での分散開催に変更した。
- ・ 変更にあたり、敬老会に対する運営費交付金制度を設け、市内7つの地区社会福祉協議会に対し運営費の助成を行ってきた。
- ・ 令和2、3年度は、新型コロナウイルスの影響により集会形式での敬老会の開催が困難な状況のため、祝品贈呈形式に変えた。
- ・ 地域行事の担い手の高齢化は全国的にも課題である。敬老会対象者の増加、送迎や準備の負担の増加、会場確保の難しさ等もあり、これまでどおりの事業実施が困難な地区もある。また一方で、人と人とのつながりが薄れる中、つながりを絶やさないため、住民同士が長寿を祝い合う、交流の場として継続していただいている地区もある。
- ・ 今年度も、感染症収束の見通しが立っていないため、6月の秦野市自治会連合会の役員会で報告し、昨年同様の取扱いとしたが、一部では、十分な感染予防対策を図り、集会形式の敬老会を開催した地区がある。
- ・ 高齢化の進行により、高齢者の孤独や孤立、認知症等、日常生活への影響を懸念する。
- ・ 高齢者を地域で見守るためには、日頃の地域でのつながりや支え合いが重要である。
- ・ 敬老会事業は、長寿を祝うという目的だけでなく地域での顔の見える関係づくりや見守りの役割もあるため、今後の在り方について、自治会連合会や民生委員児童委員協議会等とともに、様々な視点での検討を行う。
- ・ 本市では、すべての人が互いに尊重され共に支えあうことで、豊かに安心してくらせる「地域共生社会」の実現を目指しているため、地域の皆様の御協力をお願いしたい。

福祉部長

【質問・要望・意見等】	
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年、3年ぶりに敬老会を実施した。開催に当たっては、市から十分なコロナの感染対策をするよう求められ、実施した。 ・ 今までは公民館での開催であったが、今年度は、コロナの感染対策のため、より広い今までの3倍の広さの渋沢中学校の体育館をお借りして開催した。 ・ 3年前から開催していないため、過去の資料を見ながら開催したが、今年度は、中学校と自治会連合会、民生委員児童委員協議会が連携しての開催を目指し、中学校の吹奏楽部が演奏してくれた。今まで部活動の発表の場もなかったことから、保護者には大変喜ばれた。渋沢地区民生委員児童委員協議会には、全員に御出席していただき、受付では、普段から高齢者と顔見知りということもあり、非常によかった。 ・ 地域では、イベントを開催できるのならば開催してもいいのかなとは思う。それぞれ地域の状況に応じた方法で地域で検討し、実施すればいい。 	<p>渋沢連合自治会</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 敬老会を開催した場合、出席者が約1割、残り約9割は参加しない状況を市はどう考えているのか。 ・ 市は、どのように対応していくかを考えていかないといけない。 ・ お金を使い、参加者の約1割は大変喜び、主催者も満足している。しかし、残り約9割は、何をやっているか分からず、自分たちは見られていないと考える人もいる。 	<p>堀西連合自治会</p>
<p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加率を上げるために、分散開催することになったが、地域によっては、御参加いただき参加率を保っている地域もある一方で、地域によっては、少ない地域もある。 ・ このような参加率を含め、今後検討する。 	<p>福祉部長</p>
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 是非、検討をお願いします。 	<p>堀西連合自治会</p>

<p>御意見は公民館まつりのことであり、所管部が出席しておらず、全地区に関する内容であるため、懇談会後に広報広聴課職員が内容を伺い、別途対応する。</p>	<p>会長</p>
<p>(要望) ・ 9月11日に実施した市内一斉美化清掃について、自治会で組回覧で周知したが、回覧してから実施までの期間が随分あり、回覧した内容を忘れてしまう人もいたため、当日の朝、防災行政無線で放送することを要望する。</p>	<p>学校前連合 自治会</p>
<p>(回答) ・ 御要望は、一旦受け止め検討する。</p>	<p>環境産業部 長</p>
<p>(意見) ・ 市長の市政報告の中で、表丹沢のブランド化、小田急線4駅のにぎわい創造の説明があつたが、秦野市へ転入した54年前の当時の人口が5万人程度であり、人口が約17万人まで増加し、ピーク時からこの10年ほどで約1万人減り続けている。 ・ 全国的な問題である少子高齢化の少子をどのように防止するのか。 ・ 秦野インターチェンジが開通し、御殿場までの全線開通はまだ先だが、開通を目指し、特に上地区は、長期的な取組として、生産年齢人口が減る一方で、人口を増やしていかななくてはならない。市内の農業、林業を含めて、業務改善、生産性の向上をしなければならないが、やり方を変えないと人は増えないし、にぎわいだけでは市の衰退は加速し、脱却できないのではないかと懸念している。</p>	<p>渋沢民生委 員児童委員 協議会</p>
<p>(回答) ・ 少子高齢化、人口減少は、日本全国の問題でもある。そういう中で、表丹沢の魅力づくりと小田急線4駅にぎわい創造の取組を一体的に進めることで秦野を全国屈指の森林観光都市にしたい。都市の魅力、今まで秦野に不足していたものを創りたいとの思いがある。少子の問題から言えば、本市の人口が約16万人弱だが、出生による自然増と死亡による自然減、転入転出に伴う社会増減から見ると、自然減で社会増にあり、全体としては微増の状況にある。これは、秦野市への移住定住が進み、秦野が豊かな自然環境で子育てもしやすく、住みやすいことを求めて、転入する方が多いと言える。人口減少は20年、30年経過しないと解決できない問題だが、少子対策はもちろん、子育て支援の充実とともに秦野市の魅力を高めていこうと取り組んでいる。市だけではできないこともあり、一緒に力を合わせて取り組みたいと考えているので、御理解と御協力をお願いする。</p>	<p>市長</p>
<p>(意見) ・ 秦野丹沢サービスエリアの広大な用地があり、完成はまだ先だが、愛知県の雇用の創出を例に、中日本とコラボして、この本市でも起爆剤として上手く活用し取り組んでいただきたい。</p>	<p>渋沢民生委 員児童委員 協議会</p>